わらび

市川茂子

突然の揺れに驚く地震（ない）という地球に巣食う巨大怪物

忘れたき事ふいに顕（た）ちトラウマとなりいしものか消しがたくおり

地の揺れもなきによろめく足取りよ老いの心は常ゆれ動く

受け取れば旅立つときの切符かとマイナンバーの知らせ届きぬ

街路樹としてハナミズキの若木あり支えの棒にしばられながら

ひと雨のあと一斉に咲くつつじ色さまざまに樹下の華やぐ

表通りは人と車の通う路ウィークデーになりて静けし

地下鉄の駅に行き交う人の群れ五月の風を背にはらみつつ

休日もかかわりなきに起き伏しをいたわりながら静かに過ぎる

採れたてのわらびを買えば灰汁を抜き記憶に残る味付けをする